京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金四十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一圓▲五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

森安博士の講演（四）
▲ペスト豫防心得▼

葡萄牙の屬地では亞弗利加の東海岸に殖民地を澤山持つて居ります、さう云ふ處に時々流行が起るが何處かに其本元が無ければならぬと云ふ處から此處にコッホ氏が派遣されて見ました處が段々調査した結果ナイル河の水源である事が分りました、そこで世界中で四箇處の病源地があると云ふことが分りました、日本では何うであるかと申しますと、日本でも古い記載も明つて居りませぬから、古くからあつたか分りませんが、著しく人の注意を惹いたのは明治三十二年に神戸に流行つたのであります、それから三十四年、三十五年に横濱、東京に小流行があり、明治三十九年五月に淡路の洲本に流行があつて四十年八月から四十一年の一月迄由良町に一百人以上のペスト患者を出しました斯う云ふ風なペストの歴史を持つて居るのでございます、然し實際は何うであるかと云ふに之れは近畿迄參つて居りませんなんだ、ところが明治二十七年に香港で流行が起つた時分に前申しました通り日本から政府の命を受けて青山、北里兩博士が其地に出張して青山博士は重に臨床的の方面に向つて研究を遂げられますし、北里博士は原因的方面に向つて研究を遂げられました、さうしまして其時に北里博士はペスト患者の血液或は其局處の腫であるとか或はペストで死んだ者の死骸の内臓から一種の黴菌を發見されたのでございます、そうして之れが即ちペストの源因であると云ふそれが現今云ふペスト菌であると云ふ事を唱へられたのでございます、それと同時に佛國の者でエルサンと云ふ醫者が政府の命を受けて矢張香港に來られ北里博士等と同様に研究に從事して居られました此人も一つの病源菌を發見せられたのでございます、そうしてエルサンの方は北里博士の發見せられた菌とは違ふのでございます、どこが違ふかと云ふに或る方法にて其菌を脱色さして見ますると北里博士の方は脱色せずに其色素に染まるのでエルサンの方は脱色するのであります、さう云ふ風に違ふのであります、そこで明治二十七年から暫くの間は兩々相對してどれが本當の菌であるかと云ふ事は未だ解決を見なかつたのであります、ところが明治三十二年に神戸に大流行が起りました事がありました、其時分には東京大學からは緒方博士内務省からは中濱博士傳染病研究所からは北里博士斯様に種々の方面から大家が出張されまして色々の事に付て研究をして見ました其研究の結果エルサンの發見した菌がペストの眞の病源菌と云ふ事が確實になりました又北里博士も研究の結果之れが本當であると云ふことを確め此の説に同意を致しました此時からしてペストの源因となるべき黴菌と云ふものはエルサンの發見した處の黴菌が本當のものだと云ふ事になつたので御座います（谷岡速記）

●間島の農業

間島は清韓人の雜居地にして農業經營の方法も他地方と異るところ少なからず朝鮮人は清國人に比し規模小さく多くは小作せり平地の大部分は清人の耕作する所にして丘陵傾斜地の如き不良の地は朝鮮人の耕地なり之れ從來の壓迫的行政の結果によるものゝ如く從て傾斜地の開墾耕作は朝鮮人の得意とする所なり作物の種類も清人朝鮮人各々其嗜好を異にし作付歩合も亦同じからず即ち朝鮮人は粟を常食となすが故に農地の大部分は之を以て占めらるゝに反し高粱大豆小麥等の醸造工業に關する作物は清人に多く栽培せらるゝ傾向あり特用作物として朝鮮人の多く栽培するは大麻にして之等は自己の被服に使用するものゝ如し又煙草も自家用として朝鮮人の手に栽培せらるれども青麻、藍の如きは清人に依て作付せらる其他水田は朝鮮人の獨占にして四十三年は前年に比し作付面積約二倍の增加をなせり本年は前年凶作の影響を受け又朝鮮人の移住者多かりしにより一般に常食となすべき粟作增加し麥作の減少を見る等異例の狀況を示せり

◉新刊紹介

▲海外の日本　海外に於ける日本人の活躍を主とせる純なる殖民雜誌にして齡僅かに二歳に過ぎざるも体裁の具備せるは大に多とすべし十三名士の最良移民地は何處と題する一項は正に本號の讀物たり（海外の日本社）

▲[illegible]　有益の文字多く天空海濶欄は例によりて生氣溢る（天心社）

▲東京經濟雜誌　一五八〇號依然として經濟界の重鎭たり（同社）

▲中央公論　朝鮮經濟に當るべからず就中清國興亡論は近來の痛快文字たるを失はず（同社）

山中鹿之助　七十六回
西尾麟慶演

早「夫れより人々の情けによつて西須磨の浦邊に寓居を定め、全快の後以前の魚漁の業をもつて世を送り今日まで過し居りまして、時の來るを相待つて居りました、然るに圖らず今回御旗擧の儀を承はり、海路を取つて來たまふ一手ありと聞き及びました故、〳〵をやけて居りましたる處、今日事の變に及びまして、夫れと名前の名乗られざるが故に、是れなる船頭に怪しまれなる次第で御座ひます」と云ふ長物語を聞きまして、人々を奇異の思ひをいたしました、言葉みじかに鹿之助が今までの成り立ち一回の事わけ、勝久公の御身の上の幸ひ等れちもなく述べ終つて茲に喜びの酒宴を開きました、其の節鹿之助が船頭徳蔵を呼んで其の身の上を糺しまするに、九州に時めく大友家の臣下でありしも、故あつて浪人いたしたる趣き、ソコデ推擧して勝久公の臣下となし、遂に變名をつけまして荒浪碇助と名乗らせ、是も勇士の一人に數へれました、右のごとく幸先宜しく、尼子家開運の祝宴を張つて投げ込みし碇も易々と引き揚げ並で船端を叩ひて水夫楫取若ひ衆にいたるまで船歌うたふて、西須磨を出船、及びました、此方は替つて播州上月、城内にては、奢に長ずる尼子九郎左衛門が城内手廣の庭へ浪士の阿房宮を移して數人の美女を傍らに侍し、七山間の酒池肉林の大酒宴、其席に列りまして、飲よ唄への河野四郎、来島太郎、赤星軍八等を始めとして、多くの家来が酒宴に餘念もなく、此の勝件の亭主役は寺本生死之助で御座ひます、城下城内とも三日間の大振舞ひと云ふので、城下の町辻々には生死之助が財を投じて多くの酒を買入れ酒樽の鏡を抜かせ、何人にても之を飲むことを許しました、實に此の上もなきところの大々酒宴、斯う云ふ有様で御座ひますから、城内の者は殘らず酒に心を奪はれ居りまする、折から俄かに上月城の大手搦手に一度にドッと云ふ鬨の聲、俄かに天地震動して、暫しが間だと云ふものは、人波をうつが如く、此の時御注進々々と駆け込み來つたる一人 侍、九郎左衛門の前へ出でまして 侍「申上げます 九「何んぢやわめきたし 侍「唯今先君義久の嫡男勝久山中鹿之助と共に多くの人數をもつて取り候ふ」と云ふを聞た九郎左衛門大口あいてカラ〳〵と打笑ひ 九「コリヤ白痴た事を申すな、鹿之助幸盛は先年備市の毒酒にあたつて斃れたではないか、左様な馬鹿氣た事があるものぞ、能く〳〵物見せよ」と之を信じません、美女の膝を枕に体もなくそこへ酔伏しました、然る處へ又もや 侍「只今大手破れたり」御用意あつて然るべし」と注進の侍は取て返す、之を聞た河野来島田原赤星なんど云へる九郎左衛門が四天王の面々スワこそ一大事と立ち向はんといたしましたが酒の爲めに充分に酔ふて居りまして腰が立ちません、是れは是はと驚く處へ大音を揚げて、眞つ先には明家庭之助、荒波碇之助、権蔵兵庫之助、敵中突之助を始めとして多くの軍兵切り込みました、是れはと驚く九郎左衛門が遂に門を躍りかゝつて、寺本生死之助が之を引摑へて、騒ぐを押へて動かせず、うろ〳〵鎧を掛けました、幕張りをパッと切れば數十の軍兵鎧に身をかため、周圍を追つ取り圍む、是れ別人ならず皆な寺本生死之助の手勢で御座ひます、九郎左衛門も無念々々と身をあせるを、生死之助勝久公の御前に引來りまして耐手をつかへ 寺「今日は如何なる吉日で御座りませうか、一擧にして惡人九郎左衛門を斯くの如く召捕ましたれ、疾く首刎ねて亡父君を幽閉したる御怨みを晴したまへ」と突わけました、此の時九郎左衛門聲あらゝげ、九「人面獸心、さても生死之助、如何なればかゝる事に及びしぞ、汝一度我に從ひ、未だ乳の香も失わぬ勝丸なぞに從ふといふ愚かものめ」と詰りまする 寺「愚かとは汝が事なり、九郎左衛門謹く承はれ我汝に屈服せしにはあらず、計略を知らざるか、惡の報いはてきめん思ひ知つたるか………



東京電報（十一日）

▲皇孫光宮御入學　光宮宣仁親王殿下には本年御學齡に達せられたるを以て來る新學期より學習院へ御入學遊ばさるゝ筈なりと拜承す

▲伏見總裁宮令詞　帝國在郷軍人會總裁伏見宮貞愛親王殿下には目下在京中なる在郷軍人會支部長たる各聯隊區司令官を紀尾井町の御本邸に召させられ同會設立に就て優渥なる令詞を賜ひ終つて一同に茶菓を賜はりたり

▲寺内總督の答辯　寺内總督は九日第七分科會に於て議員の質問に對し中樞院は併合後は種々の政治的關係より直に之を廢止するを得ず又た基督教に對する補助金に就ては將來漸次整理すべしと答辯したり

▲對淸貿易の悲觀　滿州に於けるペスト流行の當時にありては經濟上に注意を惹かざりしが頃日南下の勢激しく北京にも病毒侵入し蔓延の兆あるより第一經濟上に打擊を受け其の蔓延の程度次第にては我が對淸貿易の全局影響せんとて當路者は悲觀し居れり

▲國民黨の密議　國民黨の箕浦、木下、肥田、三浦、内藤其他二十餘名は芝紅葉館に會合し密議を凝したるが内容不明なるも政界の現狀と同黨の狀況より見るも最も注目すべき會合なり

▲蠶系法案當局者　衆議院に於て委員附托となり審議中なる蠶系業法案に對し當局者は飽迄原案の成立に努むべき旨言明したるを以て最早や通過の運びとなるべければ議會に向つて同業者の意見を建議し原案に大修正を加ふるべき方法を講ずる事となりたりと

▲各豫算の查定了　來年度豫算は九日各分科會の査定を了し監獄費五十四萬圓、水力費三萬圓、輕便鐵道費三百八十万圓を削減するの外は全部原案可決さる其結果は十三日豫算會に附され十四日本會議に上る筈なり

▲軍艦派遣費と防疫費　英國への軍艦派遣費五十七萬圓及びペスト豫防費百萬圓は昨日の下院を通過したり

雜報

●李王と紀元節　十一日の紀元節には李王殿下は王族を從へさせられて午前十時三十分總督邸に參賀せらる

●總督府の豫算裁可　朝鮮總督府四十三年度歳入四百一万七千七百六十三圓歳出合計四百一萬七千七百六十三圓外平壤鑛業所歳入歳出二十萬八百二十六圓及び各特別會計豫算は今回御裁可を得十日總督府官報を以て公布さる

●謝恩使の東上　今回李王家職員の任命あり一方に於ては李王家の事既に決定したるを以て李王殿下には之れに對する御禮の爲め李王職事務官高義敬氏を御使として東上せしむることゝなり同氏は十日午前九時南大門驛發列車にて出發東上の途に就けり

●總督邸の拜賀式　十一日は紀元節に就き總督官邸に於ては午前十一時より拜賀式を擧行する筈なるが在京勅親任官等は夫々參賀し奏任官以下は總代を以て參賀する由にして同刻より拜賀の式を擧げ天壤の無窮を祝ひ奉る筈なり

●各學校と紀元節　十一日各官公立學校にては紀元節の拜賀式を擧行し私立學校にても夫れ〱拜賀式を行ふと

●定例長官會議　十日午前十時半より總督府會議室に於て定例長官會議を開き山縣政務總監、倉富司法部長官、木内農商工部長官、明石警務總長、小松外事局長、小原地方局長、鈴木司稅局長、小城鐵道局長官代理、岡本遞信局長官代理等列席し今回新たに改正發布さるべき諸法其他政務に關して打合せする處あり午後一時散會したり

●府尹郡守會議延期　京畿道廳に於ては近く府尹郡守會議を招集すべき筈なりしも都合によりて來三月下旬まで延期せりと

●京畿道廳の繁忙　京畿道廳は逐日事務增加し來れるが職員は其割合に少數なれば昨今各部とも大繁忙を極め日々午後七時頃まで執務し居れり

●開城に急死者四名現患者五名　開城に南川に急性熱病者九名發生中四名死せりとの急報に接し本部よりは宮尾軍醫三浦中尉顯田警部の諸氏出張檢診の結果何れもペストに非ずと決定したるが九日又々開城郡北西面加金里に急死者四名現患者五名發生し目下調査中なれ共多くは腸窒扶斯にてペストにはあらざるべしと開城より本部に急報し來れるを以て本部にては直ちに南川に出張中なる宮尾軍醫に開城にて該患者を診檢すべく電命したり

●奉天防疫通報　九日午後七時奉天防疫本部より當本部に達したる公報左の如し

管內新患者なし　管外　奉天二十三（内鐵甲二）鐵嶺五、開原四、昌圖二長春八九、法庫門二十四、遼陽一累計一千七百六十九管内外計千九百五十五なり

●仁川の檢疫成績　仁川稅關に於て過般來病毒地より入港船舶檢疫を勵行し來れるが同港檢疫開始以來の狀況を聞くに二月一日大連を出港したる萬城源丸は同四日入港同四日大連を發港したる第二十水田丸は八日入港したるを以て同稅關に於て嚴密なる檢疫を行ひ乘客及荷物を消毒し一定の期間停船隔離を命じたりと尚ほ靑島方面より入港したる支那戎克數隻ありたるを以て檢疫の上禁制品積載したるものは直ちに本國に還送せしめ其の他は一定の期間停船を命じ居れりと云ふ

●撫順炭仁川置場　仁川花房町各國墓地下空地の撫順石炭置場のペスト豫防に關し九日各國居留地側より同所へ撫順炭の陸上を拒み場所變更せられたしと申出たるより右場所に就探定中なるが多分月尾島へ變更するならん



●報德會と衛生談　西大門外報德會の樓上に於て日本人學生數十名と朝鮮人農林講習所生徒及漢城中學校農科生徒併せて七十餘名は來る日曜日の夜集合東拓會社大橋參事氏の報德の談話を聽き其席に警察官又は醫士のペスト豫防談に續いて農林畜產等の講話ある筈因みに講演者の主なるものは道家林學士元書產會社長現東亞牧場長肥塚正太漢城中學校式田情三中樞院副贊議鄭鎭弘（元水產局長）の諸氏なりと

●仁川疑獄と各銀行　仁川疑獄の範圍程度は目下豫審進行上の機密に屬するを以て暫く詳報を中止するの外なし然れども兎に角同地に在つて正に是れ破天荒の大事件なれば其が影響の如きも頗ぶ甚大なるものあり而して各銀行とも孰れも多少の腐れ緣を有するは奇なる現象にして其進行如何に就き人に苦心の狀あり其中に於て最も關係深きは

▲百三十銀行にして現に加來一人のみにても約十万圓の貸付あり而して右關係は總べて元五十八銀行時代の遺物なるが同行に繼承以來は一切新貸付を停止し近に昨年支店長會議の際營原總支配人東上して本店と打合せの上二箇年間延期を與へ同時に其抵當物たる埋築地は買戻の返り證を付し同行名義に書換あるは先づ不幸中の幸といふべし唯だ其評價を三十圓とせしは聊か過當の嫌あるを遺憾とするのみ次ぎは

▲第一銀行にして韓國銀行へ引繼の際回收薄弱の種類と認め脊負ひ込める額少からず加來に對しては辛ふじて抵當物を保有せるも桑野の如きは一物の抵當なく爲めに同行にては結局損失を自覺し寧ろ整理の機を早め得たるを多とする杯唱ね居れりと云ふ又

▲十八銀行も數万の關係あり然れども同行にては疾くに此事あるべきを豫期し全部相當の抵當物を保有し當時の評價にして經濟界不況の爲め下落せるものは追抵當を提供せしめあれば今回の影響は格別の事なきが如し更に

▲韓國銀行は如何かといふに秋田氏との關係は言ふまでもなし而して同地支店長橫山氏は該事件發生の際非常に苦慮し種々奔走に努めたる事實あり一方金融組合との關係は現在貸付額十五萬七千圓にして表面抵當物を保留せるも疑獄の結果如何によりては損失を免かれざるべし最後は

▲東拓會社なり同社の貸付は埋立組合にして一昨年六月頃の契約に係かり其後再度の追契約を强いられ現在約五萬五千圓あり而して埋立組合米豆取引所の關係は必ずしも對岸火災視し能はざるが如し

●授產と其指定地　京畿道に於ける彼の授產事業は重もに養蠶と內定せるは既報の通りなりしが偖て養蠶事業の經營地方は全道中何れの地點にして將又若干箇處なるかと言へば右に就ては過般來調査中にて不遠其指定地を發表するよしなるが道は申すまでもなく桑樹に富める地方のみを選定するの方針にてそれ〱技手を派遣し居り斯て實地事業に着手すべきは來四月上旬頃なるべしと尙は道廳にては授產事業を以て容易ならぬ一問題と爲し愼重に愼重を加へて調査に力めて遺算なきを期すべき筈なりと

●驛屯土米の競賣　溫陽郡驛屯土穀五百七十六石餘本月二十四日同郡衙に於て競爭入札に付する筈にて此の[illegible]業會議所に於て入札者會議方法協議し來れる由なれば右希望者は京城商業會議所に來合すべしと

●十八銀行南浦支店　長崎十八銀行支店を鎭南浦に設置する由は既報したるが先般同行の總會に於て愈々新設することに決定したりと

●一月中の京城商況（商業會議所調査）

京城日本人側に於ける一般商況は前年に比し著しく意外の不振なりし爲め引續き各商品の賣行捗々しからず貨は僅一部を除く外概ね沈滯模樣にして且つ結凍期のことなれば各工事及事業等は中止の姿なるを以て需用の減少せるは自然の趨勢なり然れ共人口に於ては昨年の同期に比すれば一萬二千七百七十二人即ち約五割方の增加を示せるも物貨の集散高は僅かに一割內外の增進を見たるのみ加之各商を通じて同業者の增加等亦悉く不振の原因たらざるはなし紙、帳簿、印刷物等は會計年度末のことなれば各店とも好況を示せるも其他の物品に於ては著しき賣行を見ず何れも不振の狀態にあり之れ素より一時的現象より來る結果にして常に膨脹しつゝある經濟界は平靜の間に秩序的發展の素因を爲しつゝあるを以て近く解凍期に至らば目下の狀態を打破し將に其恢復を見るは疑もなからん朝鮮人側の商況は當大節季の事なれば例年に比し各商店とも頗る盛況にして就中金巾海產物等、相當の賣行あり昨年の同期に比すれば約三割方需要增加を示し綿布及米穀類相場の昇騰を見たり是れ併合の結果退官賜金、公債、免稅等の餘澤を以て一般購買力を增進したるも各地農民は原產地に於て金融組合に物品を提供し貸金を仰ぐ事の有利にして安全なるを確知したる結果大節季と雖も見切放賣の必要を感ぜざる爲約五分方の昇騰を見たり

●全南營農者總會　全南中央營農者組合は十一日紀元節をトし榮山浦に於て第八回總會を開催する由にて去る四日木浦港杉本幹事宅に準備會を開催したる席上にて左記各項の總會附議事項を決定したり

一、會務報告　一、役員改選

一、東洋拓殖會社に希望

（イ）金融部に關する希望

（ロ）事務部に關する希望

因に右東拓に希望の件にて定めて一花咲く事なるべしと豫想せらる尙は該事終る後一大宴會を張るべしとなり

●咸鏡の漁獲狀況　咸鏡道鏡城、新浦、新昌、遮湖、西湖、長津等の各道沿岸は朝鮮沿海中最も明太漁業の盛なる地方にして毎年十一月より一月までの間に約百萬圓の漁獲あり本年の如くは昨年末の暴風の爲め漁船の遭難せるもの五十隻內外に及びしにも拘はらず此際の情報に依れば九十五六萬圓の收入ありたりと云ふが尚ほ其肝臓は從來最も廉價にて放棄せられたり、に釜山の西川宗一氏は之れより肝油を採製することを發見し此程其肝油採取を創め肝三箇十錢宛にて買收せしに是れが爲め從來の廢物も意外の價格を保つに至り村民は茲に遺利を拾ふの恩惠に浴し大に其幸福を悅び居れりといふ

●愛國婦人會新職員　愛國婦人會朝鮮本部新組織發表と共に總裁閑院宮妃殿下には山縣政務總監夫人に朝鮮本部長を石塚、大島、兒玉、小宮の各夫人に副長を宇佐美、有吉兩長官藤田院長に顧問を小原、國分、兒玉、三局長、入江書記官に相談役を囑托せられ本部評議員には京城龍山在留の重なる夫人三十七名を猶は道長官夫妻に委員部長及顧問を府尹夫妻に委員部長及顧問を囑托せられたり

●成鏡の民長要領を得ず　然れども民長を汎ねく徵すべく申告函を設置すべしとの希望あり民長之に對し再三當局者に質問せしが今尚は民團制の將來に就ては何等要領を得ず然れども民團の繼續如何に拘らず代議機關の存置及稅率に就ては日鮮人均一ならしむべく又教育制度は現在の財產を基金とし特別のものたらしむる機會を逃べ置けりと答ふるや大村百藏氏憤然として質問に對する希望は民長としての希望なるや將又個人としてか而して其何れに在るも斯かる大問題は總督府と雖も僅かに處分し得べきものに非ず況んや民長に於ては宜しく吾々議員の意見をも徵して可なり故に相當調查委員の設置あらん事を望む旨提議し民長之を諒し其間原勝一氏より靈鳥に關する電車軌道延長の件南大門外街路擴張の件竝に其異相及水道問題に關する其後の經過等其他二個の質問及香川廣濟氏よりは豫算村議期に質問あり民長一々之に答へ午後三時三十分閉會を告ぐ兎に角半數以上の新顏觸を加へ更に京龍合併後の双生兒的民會に係める議なれば何れの議員も力瘤を入れて問題に向へるを見ぬ然れば古城民長も頗る平靜へあるが如く現に各種各様の質問希望矢を蹈いで現はれ非常の活氣を帶べり當日は數万圓を賭せ、新議員の新民會なれば傍聽者頗る多く五十餘名を算したり

●朝鮮教育會　來る十四日高等女學校校舍に於て午後一時より第一次評議員會を開催すべしと

●京城新民會　京城民會は既報の如く昨十日午後一時より開會す議員は旅行中の山口太兵衛氏を除くの外全部出席し先づ抽籤を以て議席を定め次で議長の選擧を行ふ其結果二十七票の大多數を以て海津三雄氏當選し更に會計檢查員の選擧に移り前田熊市、中村再造、城六太、村井吉七、大橋眞三郎の五氏を擧げ當日の議事日程を終了せり斯くて後高橋章之助氏より民會開會時間の午後一時よりとあるは其業務多端なる吾等議員の爲めに不便尠からずとて之を主とせる議事規則改正案の建議あり滿場之に同意し之が調查の爲め五名の委員を議長指名の下に決しぬ右終るや高橋氏質問を求め一、民團制度の將來に關する當局官憲の方針如何二、南北滿洲に於ける肺ペストに對し如何なる豫防の防疫手段を講じつゝあるかの質問及民團行政に對する居留民の意嚮

●宇佐美長官歸任　宇佐美內務部長官は十日午前八時四十五分南大門驛着列車にて歸任したり

●藥師川隊長の巡視　京城憲兵隊長藥師川中佐は昨今各地に於けるペスト豫防の狀況を視察せん爲め不日管內巡視の途に上るべしといへり

●佐藤群馬縣內務部長　群馬縣內務部長佐藤幸二郎氏は朝鮮勸業狀況視察として昨九日夜入京十日總督府に小原局長を訪問したり

▲仁川港の出入船舶▼

▲福州丸　十一日大阪より入港

▲山陽丸　同　大阪より入港

▲音羽丸　同　橫濱より入港

▲山陽丸　同　大阪へ向出港

公人私人

△佐藤幸三郎（驛車務官）九日入京巴城

△西村長太郎（辯護士）同上

△秋本豊之進（平壤府尹）同上山本

△石崎貞太郎（憲兵中尉）九日揚州へ

△吉川岩喜（技師）同上平壤へ

△水谷千萬吉（平壤鑛業所次長）同上

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客　九日の分

乘車客　五四九　下車客　五八九

乘車賃金　一二九三、八二

▲南大門驛荷扱高　九日の分

發送　一一〇噸　到着　三六六噸

貨物賃金　四九八、五四

▲龍山驛の乘降客　九日の分

乘車客　一七九　下車客　一五八

乘車賃金　二一五、二二

▲龍山驛荷扱高　九日の分

發送　八七噸　到着　三八七噸

貨物賃金　三九六、二七

●仁川の大疑獄記事に就て（序を以て朝鮮新聞に答ふ）

仁川の元老と自稱する加來榮太郎が刑事被告人として其筋へ拘引されたのは去る五日の事であつた、而して本紙が極めて簡單に拘引の事實を三回記事として報道したのが去る七日であつた、有體に云へば加來等の拘引は天下の大事ではないのだ、而し新聞紙の職責としては弄を全然葬り去ることも出來ない、ソコデ本紙は同事件に對する態度は七日の紙上に單に表面に現はれた事實だけを揭げ、同事件に關する詳細なる報道は仁川の出來事だけに仁川に於て發行する朝鮮新聞に俟つことにしたのだ。加來等と朝鮮新聞、其關係が裏面に於て假令如何樣にあろうとも苟くも社會の木鐸たる仁川唯一の朝鮮新聞がマサカに加來等の拘引記事を全然葬すべしとは思はなかつた、而るに朝鮮新聞は加來等との私關係の爲に公實を忘れた之を見たる本紙は同業京日紙の驥に倣び餘儀なくも仁川新聞を經營くとは知りつゝ同事件に關する詳細なる報道を爲すことゝなつた。

加來等の拘引以來投書及び電話が仁川方面から來たのは非常なものだ、併し本紙は投書や投書的電話に重きを置くの此際安全ならざるを慮つた、故に特に記者を派して事件の眞相を探らしめた。特派記者は種々の報道を齎らした其中荻谷朝鮮新聞社長被召喚の事があつた。荻谷氏の被召喚、其事實を發表するの前に尙一應確むるの要ありと爲し、本社は八日の朝に於て該事實の有無を手近なる朝鮮新聞京城支局に尋ねた、支局員は答へた、本社長荻谷は其筋へ召喚され取調を受けたるも昨夜歸宅せりと、本紙の態度はドコドコまでも本事件に關し朝鮮新聞を無視せざるを可とし翌日午後二時疑獄記事の原稿を作るの前に朝鮮新聞支局主任小幡氏の意見を電話を以て聞かんとした、不幸小幡氏は不在であつた、併し幸にも記者青山氏が居られ小幡氏に代り能々來社されて本社記者の質疑に答へられた。要之本紙仁川疑獄事件の記事は斯くを發表するの前に於て同業朝鮮新聞京城支局の意見をも聞き程に手數を掛けて成りたる者、其正確、信ずるに足るものであるのだ。若し夫れ十日付の朝鮮新聞が野心家流言などゝ下らぬ文を揭げて本紙の記事を非難せんと企てたるは刑事被告人加來等に對する忠義立と云ふべく今更ながら其志の殊勝なるに感ずる。

細鳴電報

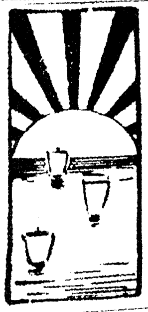
▲大阪株式（三月限）（前場）（後場）[illegible]

▲大阪米[illegible]

▲仁川米豆取引[illegible]

●總監部の拜賀式　既報の如く十一日紀元節に付總監部にては午前九時三十分より警務總監部各部長以下[illegible]

●仁川海戰紀念日　既報の通り[illegible]九日は仁川海戰紀念日にて午前十一時より紀念祭典を大神宮に於て執行し久水領事[illegible]民長[illegible]市場郵便局長民團議員其他官民百餘名に[illegible]陸海軍萬歲を三唱し來客散を[illegible]



活動寫眞 (曾禰子)

●十日朝の南大門驛 打ちつゞく晴天に氣も輕び客も頗る賑やかに見ゆる、風塵からぬ朝まだき、往き來の人もちらほら、高き空晴の大門は殊に崇嚴の念を增す、停車場には近來になき盛況である、一等待合室には從四位勳三等三保

松氏夫人小宮泰子の東上を送るべくプラットフォームの周圍には

津輕秀麿氏夫人

照子の君を始め、朝鮮の貴婦人

閔丙奭夫人

謝恩使高義誠

其他の花の顏が咲き匂うて麗はしき光りが一堂に流るゝ、多くの見送人に挨拶氏も東上すべく

內部長官宇佐美勝夫

氏はドアを排して下車した、數多の官人は恭しく之を迎へて去つた。

小宮夫人の托したものが、花瓶一箇 取扱注意

と書した木箱に赤紙が貼られてある。

午前九時、釜山行の列車は窓外花と見紛ふ貴婦人の雲髮、輕く動いて都かに房れた。

幾多の貴婦人を擁して輕く砂塵を蹴つて驛前の

代診と看護婦

▽醫員さんの留守の間に

龍山汐見坂の池坊病院のチョコマンで高標さん……の看護婦の加藤さみ居、此の看護婦山本…………二十七八の如く見へる美男……少し粹な男なるから……直接談判と出掛けられし……醫者……更惡るくない事と思つて居ました……手前の方に……看護婦どん夢中になり居るを素破抜んと……山櫻町青木病院の代診看護婦も以前青木病院の名の厄介になる事屢々……られ一時悲境に陷らせしとて青木氏の病院に月給二十五圓にて勤め居りしも入院患者も應け話しのみを聞得するに至り鵜の目鷹の目……前記の盟月某と一…………此代診醫なりしが……青木氏……に相談の……にて郷里へ歸……留守宅を萬事……青木氏不幸にして……は勿論今日迄入院……者さる……宜敷賴み……看護婦と龍山吐月……乳繰り合ひ……來……は困つたものなり

●京城の大相撲 櫓大鼓の音は勇ましく八百八街の天地に響いて滿都の人氣を湧騰せしめし大角力の幕……南大門通りの水

產物市場の素人角力は九日夜より始まつた、買擧盛んなりし市場も夜の幕に閉されて軒低きバラック小屋に輝く電燈の下に盛士型の如く焚き照りて日鮮人は周圍に堵を築き皆片唾を飲む土俵に上つた若者には未だ命名がない、片や黑シャケツ、片や辻本

商店の古牛天、疑つたく……の行司もなく、バッタリ組んで二三合手繰の下手投に……

極まつて、ジャケツの頭は砂に埋まつた、笑聲ドット起つて後より縱々新顏が飛込む四十八手の裏表、流石に若者の血は華やかだ、盛んなれ！

●各署の鼠買上數 九日各署捕鼠買上數西大門分署八百四十七東大門分署五百八十八北部署三百六十一水門洞分署二百二十二南部署二百二銅峴分署百八十四龍山憲兵分隊三十一鍾路警察署一九匹

●仁川捕鼠買上數 九日の買上は百七十六頭にて五圓二十八錢累計三千四百七頭懸賞開始より二千百五十頭

總督令孃の結婚

▽騎兵大尉福羽眞城氏

嚴父寺內子爵が曾禰統監に代りて統監として朝鮮に臨むに際し伴はれて渡鮮することに決するや稀代の巨匠關兼光が會心の作なる傳來の短劍を懷にして男恥かしき決心を無言の裡に吐露し盡くし壯烈古烈婦を凌ぐと稱へられたる末子孃（二〇）父總督の施設宜しきを得たる爲め秘劍幸に加ふる時なく滿城士民の歡呼に送られて歸東せられたるは去年の秋なりしが今度宮內省內匠頭子爵福羽逸人氏嗣子陸軍騎兵大尉福羽眞城氏（三〇）と結婚の約整ひ去る五日午前十一時寺內子爵同夫人福羽子爵同夫人兒玉伯爵同夫人其の他の親戚立會の上日比谷大神宮に於て嚴かなる結婚式を擧行せられたりと嗚呼昨日の烈婦茲に良緣を得て一家の主婦となる其の慈母と成らるゝも又甚だ遠からざるべし芽出度し〳〵芽出度し

●選擧飛沫 埼玉縣入間郡豐岡町七十五番地當時旭町一丁目二百十番戶土木建築請負業吉澤德太郎（三五）が一月十九日午後八時頃太平町一丁目料理屋田舍家事永松吾策方議員選擧西部事務所支部なりし當時運動上の事より上田外次郎と共、暴行を働きし云々にて南部署に引致され取調中なりし事は當時既報の如くなるが該事件は被害者側其の他太平町有志等より上田に對し訓戒放免を司法係りに嘆願せしも上田は證據充分として檢事局に送られ伊藤檢事の手にて豫審に付せられ吉澤は證據薄弱にて單に疊の上に放尿したりとの廉を南部署が信じ警察犯處罰令に因り拘留十日の即決を爲したるに吉澤は不服にて正式裁判を仰ぎ京城區裁判所に一件記錄送られしが該事件は同區裁判所に於て宮脇判事秋場檢事の係りにて公判開廷せられ被告辯護人として永井辯護士出廷傍聽人四十餘人、被告は犯罪事實を否認せり證據調に移り一件記錄の上に何等證據なく單に事件發生當夜被告吉澤外數人と西小門通り居住古原晉吉なる者等にて同席酒宴を開きし事とて古原が吉澤の暴行と放尿とを實見したる旨被害者の證言に過ぎずして古原は即時京城を立去り京義線方面に向け出發不在にて南部署に於て取調出來ずして即決したるものなれば古原を證人として召喚申請ありたしと請求し判事は之を許可し來る十四日開廷す可しとて閉廷したり

●驛內販賣酒の追加 鐵道院線各驛構內にて營業人の販賣する日本酒の種類は一定の制限ありたるも過般來より菱百正宗賀茂鶴總齡白牡丹月桂冠の五種を增加し販賣する事となれり其代價は菱百正宗、賀茂鶴、總齡、白牡丹等は大瓶三十五錢中瓶二十五錢小瓶十錢にて月桂冠のみは大瓶三十三錢中瓶十八錢小瓶十錢なり

●朝鮮漁夫の遭難 江原道蔚珍郡船長張文伯外數名は七十石積帆船に乘り四日釜山近海を航行中暴風に遇ひ六日島根縣簸川郡日御碕に漂着なしたる處漁夫に救はれたり

●乞食の自殺未遂 住所不定乞食尹姓女は盲目にて世を悲觀して自殺を謀り九日午後六時五十分中部堅坪坊香井洞十九統二戶崔光瑞方西側の井戶に飛込みしも崔光瑞之を發見警官及附近の人民救上げ應急手當を施し生命に異狀なきより北部署より京城府に引渡したり

●手長 九日十時頃龍山旭橋通七番戶菓子商小淵庄三郞方店頭に陳列せる朝日煙草二箱を窃取逃げ出したるを家人は大聲之れを追ひしが折柄巡回中の河崎巡査之れを認め直ちに追走本人を捕へ本署に引致したるに犯人は同地面洞里龍洞六統趙炳學（二七）と云ふ手長き奴なりしと云ふ

仁川商店めぐり

桃山町 宅合名會社

仁川桃山町酒類釀造販賣宅合名會社仁川支店は去る明治三十九年創設し內地よりの輸入淸酒販賣の傍ら朝鮮に於ける淸酒釀造を開始し最初一千七百石を釀し四十三年は二千百石本年は更に四百石を增し二千五百石を釀造し尙ほ朝鮮人向白き藥酒、甘露酒を試釀したるが之れ又好成績を得たりと最も藥酒甘露酒は在來の朝鮮酒に改良を加へたるものにて甘露酒の如きは名の如く甘味を有し日本婦人の口にも適する程なれば遂ては內地人の嗜好する處ともなるべしと價格は一石に付藥酒十八圓より二十圓、甘露酒は三十七八圓なりと

●演藝だより

●京城座 十一日紀元節の狂言は特に「火中の美人」全十二場を撰み亦三幕目には舊劇「明烏雪曙の場」を出し吉井の時次郎、堀江の浦里に松澤のれかやの由重なる配役は

絹商人穗積（岩村）藝者小文（堀江）稻村辰三郎 吉井 松阪良次（松澤）岡田竹松（塚本）もぐら龜（藤澤、かしろ（糸枝）親方藤兵衛（小泉）岩井梅丸（江見）

十二日日曜の狂言は去る七日道具背景等不整の爲め遷延せし新派劇の獨參湯「不如歸」を愈々相違無く開演の筈にて場面も旅順の激戰、千々岩の爭鬪等を加へ觀客の滿足を期すると云ふ

片岡中將（岩村）浪子（堀江）千々岩安彥（吉井）加藤夫人れ豐（塚本）千鶴子（村上）武雄（松澤）乳母れ幾（藤島）家令田澤（藤澤）山木兵造（小泉）中將書生山本（花房）片岡夫人（小室）母けい子（江見）

十三日藝題は俠客劇「鶴朝重太郎」全八幕十三段返しにて立廻り澤山の賑かなものなりと重なる配役は

署長山口透（岩村）女房れ艶（堀江）須三（吉井）政五郎子分三吉（塚本）鶴朝重太（松澤）政五郎子分重藏（藤澤）藝者夏吉（藤島）政五郎（小泉）鶴朝子分小櫻千太（江見）

●歌舞伎座 十一日の代り狂言は「成田利生記楢の癸」七幕にして重なる配役左の如し

桂川力藏（正三郞）宮田淺之函、瀧野戶重右衛門（鶴三郞）呼出し清吉（尾之吉）小野川喜三郞（淺吉）瀧見山大八（花舛）藝者富吉（瀨司）

尙は十二日は「寶齡仙代萩」の通し十三日は「浪華俠客魁梅治」二日續なりと

●浪花館 越之助一座十一日の語り物は

御祝儀寶入舟白石噺七ッ目（入登）れ駒才三鈴ヶ森（濱助）阿波鳴戶八ッ目（越濱）日吉丸三段目（若大）朝顏日記宿屋の段（土佐濱）播州合邦ヶ辻（源入）八陣八ッ目（ゑ助）小春治兵衛紙屋內段（富十才越子）千兩のぼり猪名川內段（越之助）矢倉太鼓曲引（曲合）

操　茂坊

去る十三日の晚と記憶する、住所や姓名は云われぬが、或る女學校を卒た、兩人の婦人が「操」といふことに付て、非常に云合つていたことを、今一寸思出したので女々しい樣だが、自分が思つて居ることを擧して見やう

一體操つてものは、まあ、或る人を始めて思ふとする、さうして其儘一生奇麗に思ひ通せたのが操の中の操だぜ私は思ふ。

夫れから宜い惡いに係はらず嫁いた先きの良人を一生大切にするのが其の次ぎだらウと思はれる、それから又先に思つた人があり乍ら、仕方なく他家へ嫁いて死ぬまで先きの人を思つてるのも操である、始めに思つた人があつても其の後ちに夫れよりも猶自分の心に叶つた人が出て來ても其の人に自分の心を打ち明けず、獨りで苦しがつて居るのも操である。

私は何も操つてものは昔の人が言ひならはした樣に良人と名のつく人に從ふ計りが操だとは思へない、然れども亦思はない人を思つて居ないと思ふのも操と言へない事もない。

今日の運勢

二月十一日 舊正月十三日 四綠 壬子先勝闘入專入り

△一白 起業開店入學門披露命名に忌む他は進んで吉△二黑 旅行轉住入學門起業開店に吉他は手控への事務に金錢貸借共同協合の事に忌む△三碧 新事旅行不動產上の事に忌むの事近親知友の事の累あり遺失防ぐべし△四綠 新事婚議旅行見合せ他は進んで吉盜害遺失防ぐべし△五黃 買取引金品授受交涉談合の事故障あり又出費若くは世話事多き日なり△六白 新事及轉業樣替旅行に忌む總じて不知意の事多し△七赤 遁り難き日 新事婚談中裁協商談合協同の事に忌む負傷注意すべし△八白 盜難衛生不和離間注意すべし新事旅行見合せの事△九紫 證券精算金品授受日談に故障あり他は進んで吉（本町五丁目三一館）

朝鮮總督府總務部會計局營繕課

一 海州警務部長官舍新築工事

右二月十五日入札ニ付ス詳細ハ二月十三日以後ノ朝鮮總督府官報又ハ當課ノ揭示ヲ見ルヘシ

明治四十四年二月十日

第九期營業報告

貸借對照表

負債之部

科目	金額
諸預金	七三〇、四七〇・九二〇
支拂送金爲替手形	[illegible]
他店ヨリ借	[illegible]
政府貸下金	[illegible]
資本金	[illegible]
積立金	[illegible]
配當未濟金	[illegible]
當期純益金	[illegible]
前期繰越金	[illegible]
合計	一、五五四、五六三・九四〇

資產之部

科目	金額
諸貸附金	[illegible]
割引手形	[illegible]
有價證券	[illegible]
他店へ貸	[illegible]
預ケ金	[illegible]
假拂金	[illegible]
拂込未濟資本金	[illegible]
營業用地所建物	[illegible]
營業用什器	[illegible]
金銀現在額	[illegible]
合計	一、五五四、五六三・九四〇

損益

一 金一萬九千一百五十九圓十三錢 當期純益金

一 金一萬四千七百九十四圓八十五錢 前期繰越金

合計金三萬三千九百五十三圓九十八錢

此配當計算左ノ如シ

一 金四千圓也 積立金

一 金九千圓也 別途積立金

一 金一千圓也 配當積立金

一 金四千七百五十九圓三十七錢五厘 配當金（年一割但政府所有株ヲ除ク）

一 金一千圓也 重役賞與金

一 金一萬四千百九十四圓六十錢五厘 後期繰越金

右之通リ候也

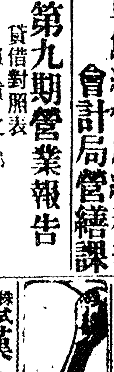
明治四十四年一月

株式會社大韓天一銀行

役職	氏名
銀行長	李鳳來
取締役	尹晶鉉
取締役	洪忠鉉
取締役	金時熙
支配人	遠山保

前記ノ各項調査ヲ遂ケ其正確ナルヲ證候也

役職	氏名
監査役	尹致昭
監査役	金鎭燮



株式會社漢湖農工銀行

第八期貸借對照表

資產

科目	金額
農工債券	三〇〇、〇〇〇
未拂込資本金	[illegible]
年賦償還貸付金	[illegible]
定期償還貸付金	[illegible]
貸付金	[illegible]
割引手形	[illegible]
荷爲替手形	[illegible]
供託金	[illegible]
當座預ケ金	[illegible]
振替貯金	[illegible]
假出金	[illegible]
公債	[illegible]
株券	[illegible]
他店へ貸	[illegible]
地所	[illegible]
建物	[illegible]
什器	[illegible]
抵當流込物件	[illegible]
金銀	[illegible]
合計	[illegible]

負債

科目	金額
政府貸下金	[illegible]
貸付債券	[illegible]
農工債券發行濟高	[illegible]
支拂未濟農工債券利息	[illegible]
資本金	[illegible]
積立金	[illegible]
配當積立金	[illegible]
支拂未濟配當金	[illegible]
定期預金	[illegible]
當座預金	[illegible]
小額預金	[illegible]
別段預金	[illegible]
公金預金	[illegible]
預金手形	[illegible]
支拂送金爲換手形	[illegible]
借入金	[illegible]
他店ヨリ借	[illegible]
四十三年度地方費	[illegible]
當期利益金	[illegible]
合計	二、七五六、八一〇、九〇

損益

一 金十二万七千七百九十二圓六十錢 當年利益

一 金五千五百八十七圓十七錢 前期繰越

合計金十三万三千三百七十九圓七十錢

一 金十一万二千四百七十六圓 當年損失

差引金一萬四千九百四圓 當期純益金

此配當計算左ノ如シ

一 金三千五百圓 積立金

一 金三千五百五十圓 配當積立金

一 金四千七百十三圓 配當金（年一割二分）

一 金七百五十圓 役員賞與金

一 金五千二百四十一圓四十錢 後期繰越金

右ノ如シ

明治四十四年一月

株式會社漢湖農工銀行

役職	氏名
理事長	白完爀
理事	白寅基
同	金基永
同	趙鎭泰
同	趙秉澤
同	李容淳
支配人	久能省三

前記ノ各項調査ヲ了シ其正確ナルヲ保證ス

役職	氏名
監事	金時鉉
同	金庸□

大阪株式（二月限）（前場）（後場）

神戸 鐘紡 引

大阪期米

●十日（前場）三月寄十五圓八錢止同上 四月寄十五圓二十錢止十七錢

●十日（後場）三月寄七十六錢▲最高七十九錢▲最低七十六錢止七十九錢▲四月寄三十四錢▲最高三十六錢▲最低三十錢▲止三十錢

第一應接室に於て午前九時三十分より司令部各將校、警務總監部各課長以下判任官の參賀式を擧行すべし

……て午前十一時より紀念祭典を大神宮に執行し久水府尹、岩崎民長其他官民多數參拜あり午後三時よりは俱樂部樓上に祝宴をなし宴に移り久水府尹の發聲にて……

……中將へは夫々祝辭を奉呈せらる